

令和元年度豊明市地域包括ケア連絡協議会

令和元年8月16日（金）15時～

市役所 東館1階 会議室4にて

欠席：三浦委員、嘉戸委員

1、あいさつ（健康福祉部）

会長あいさつ

豊明市の「地域包括ケアの取組」は全国で高く評価されている。しかしながら、まだまだ流れを止めることなく高みを目指していきたい。

地域包括ケアは医療介護連携推進事業等を通して、平成29年に一通りの整備が終わり、新しい取り組みに移行しつつある。疾病に対するケアから先制医療・予防医療に大きくシフトしている。また、我が国は人生100年を念頭におき、最後までしあわせに健康に暮らせる社会づくりを進めている。

包括ケアの最終的な目標は、介護や医療に頼らない元気な高齢者をたくさん増やすことである。

しかしながら、介護保険の対象者は増え続けている。先制・予防を徹底して対象者の減少をみるには、5～10年はまだかかる。高みにいち早く至り達するよう豊明市に期待したい。

2、議題

(1) 地域包括ケア構築に向けた取り組みについて（健康長寿課 松本課長補佐）

資料1参照

・豊明市が目指す地域包括ケアの方向性

できるだけ本人の「ふつうに暮らせるしあわせ」を支える。そのために役立つものを見つける、探す、無ければ創り出す。

・豊明市版地域ケア会議（多職種合同ケアカンファレンス）を月2回開催している。

市が主催し、症例検討会議とし、包括版（要支援、事業対象者）、居宅版（要支援、要介護）を扱いケーススタディ型としている。

高齢者が抱える生活課題の把握から、生活ニーズにより必要な資源がみえ、地域のあらゆる資源の活用した「通いの場」を展開している。

・住民主体の支え合いのしくみ 豊明市おたがいさまセンター「ちゃっと」

・民間事業者との協議・保険外サービス創出協定14社と締結しており、高齢者向けのサービスの開発を行っている。民間企業と連携し創り出す多様な「通いの場」を進めている。

・地域の民間企業で創る「通いの場と手段」高齢者の通いの場をつなぐオンデマンド型乗合送迎「チョイソコ」の紹介。

（意見）

① 多職種合同ケアカンファレンスについて

ここで知り得た患者情報を参加者が漏らすことがないよう細心の注意が必要。参加者に秘密保持のサインをもらうなどしている自治体もある。

② 保険外サービスについて

豊明市の取組みは、民間企業にこれをやってくれとお願いするのではなく、これならやれますと提案してもらうやり方は、他の自治体も是非見習って欲しい事例。他市にはない、極めて斬新な取り組みであり、皆さんが誇らしく思っているものだと感じている。

(2) 各委員（団体）からの取組の報告

- ・資料2-1 介護支援専門員協議会（澤村委員）
- ・資料2-2 リハビリ連絡協議会（野々山委員）
- ・資料2-3 看護連絡協議会（松下委員）
- ・資料2-4 ソーシャルワーカー連絡協議会（森委員）
- ・資料2-5 豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし（かけはし）
- ・資料2-6 認知症総合支援事業（南部地域包括支援センター）
- ・資料2-7 シルバー人材センター（シルバー人材センター）

会長：各委員（団体）からの取組について総評

質疑・応答

質疑・応答：なし

情報提供

・事務局：

- ① 三師会とともに四職能団体に加え、管理栄養士・栄養士連絡協議会が8月31日設立する。
フリーや企業医薬品医療機関に在籍している。市民に還元していく。
ケアマネジャーへの栄養訪問指導を啓蒙していく。
- ② 藤田医科大学「地域包括ケアトレーニングセンター」について
自治体職員の生活支援・地域包括ケアを考える職員を対象とする。
人材育成として、東海北陸厚生局6県12市町村が10日間（全5回）9月12日開校する。
豊明市多職種合同ケアカンファレンスやちゃっとな民間企業との連携等で学び、フィールドワークも行う予定。
- ③ 豊明市の地域包括ケアの取組が注目されているが、何が生まれ、何が見えたのか、そして、何が改善したのか等の評価・アウトカムが求められている。第8期計画として、秋からニーズ調査や在宅介護調査を実施し、どのように変化があったのか評価する。

(3) その他

事務局：議事録については確認後、ホームページへの掲載予定。

以上